

昭和50年度第一回
シグマ研究専門委員会議事録

日時 昭和50年5月16日(金) 11時~17時
場所 日本原子力研究所東京本部第2会議室
出席者 塚田 甲子男(原研)
浅見 明(原研) 飯島 俊吾(NAIG) 飯島 勉(原研)
五十嵐 信一(原研) 大田 正男(九大) 大竹 巖(富士)
桂木 学(原研) 後藤 頼男(原研) 瑞慶覧 篤(動燃)
関 雄次(MAPI) 高橋 博(東工大) 中嶋 龍三(法大)
西村 和明(原研) 原田 吉之助(原研) 久武 和夫(東工大)
松延 広幸(住友) 宮坂 駿一(原研)

事務局：中川，大杉

配布資料

1. シグマ委員会議事録
2. Provisional programme for specialist Meeting
3. Conf on Nuclear Cross Sections and technology
4. JENDL-1 編集ブロックダイヤグラム
5. 炉定数専門部会昭和50年度計画
6. HORENからの手紙
7. 遮蔽計算に必要な核データ
8. memorandum on Recommendations from non-neutron nuclear data meetings held in 1974 .
9. 国際会議の予定
10. 50年度実行予算
11. 50年度委託，受託関係
12. 51年度概算要求

1.3. 核データ専門部会報告資料

議 事

1. 前回議事録確認

訂正は次のとおり

P. 3 12行 最近用いた会合で→最近開いた会合で

P. 3 13行 ^{235}U では L と X → ^{235}U では Y と α

2. JENDL-1の49年度報告(五十嵐)

49年度に、各機関に調査委託をしていた「JENDL-1用核データの調査」は、4月末までに提出された。多くの文献シートのほか、データはカードにして約6000枚に達する。UKNDL, ENDF/B, KEDAKとJENDL-0のプロットは核データ研究室で行なっている。

3. NEANDC会合報告(塚田)およびSpecialist meeting報告

第18回NEANDC会合(50年4月Harwell)については、塚田委員長から、全体として核データ活動の欧・米・ソの多極化への動きが印象に残った、などの全般的状況のほか、問題となった各テーマにつき紹介があった。

Specialist meetingについては、原田委員よりプログラム(資料-2)にもとづき2~3の報告の紹介および一部アブストラクトおよびフルペーパーの回覧があった。

これらいずれについても、近くJNDCニュースで報告される予定である。

4. Washington会議報告(浅見)

資料-3にもとづき全容の紹介および幾つかの発表をピックアップして紹介があった。

5. 人 事(五十嵐)

次のとおり委員の交替・新任が了承された。水田氏(NAIG)を本委員として追加したい旨、飯島委員より提案があったが、この件につ

いては、委員の選任基準の再検討を行なうたうえで、審議することとし、とりあえずオブザーバーとしての参加とすることとした。

本委員会：菅原氏→関 氏(MAPI)

専門部会：燃料計量 藤岡氏、川上氏→加藤氏(名大)

喜多尾氏(放医研)

炉定数 関 氏→宝珠山氏(MAPI)

核データ 宝珠山氏→佐々木氏(MAPI)

崩壊熱W.G. 松岡氏(日立)を追加、又玉井氏の後任を求める件も承認された。

6. 50年度予算計画(五十嵐)

(1) 実行予算

資料-10にもとづき説明があり了承されたが、複写費が制約されているのでその確保の要望があった。

計算費については、各専門部会相互間の調整を行なうたうえで配分をきめることとした。なお核融合核データのための200万円は調査依頼とし、計算外注費、150万円のうち50万円は、例年通り磁気テープ変換費とする。

(2) 委託・受託契約

資料-11および資料-4にもとづきJENDL-1のための委託調査、および動燃受託計画につき説明があり了承された。

7. 各専門部会の49年度報告と50年度計画

(1) 核データ専門部会(五十嵐)

資料-13にもとづき49年度は従来の4W.G.に融合炉核データW.G.が加わり5W.G.になったこと、各W.G.がそれぞれ活動を進めた中で、検索システムW.G.は一つの転換期にあること、などが報告され、続いて50年度計画では重い核の速中性子領域のデータ評価は委員会の枠を越える段階に来たので各担当者の個人作業

としW.G.の活動からはずしたこと、検索システムについては委員会全体の枠で更に広く意見を聞く必要があることなどを含めて報告があった。

(2) 炉定数専門部会(桂木)

資料-5にもとづき50年度計画が報告された。ENDF/B-4形式のデータからJAERI FAST set形式の炉定数を作るためのコードを作ること、高速炉用FP炉定数を作りそのベンチマークテストを行うこと、遮蔽計算用定数を整備することの3計画について説明があった。

(3) 燃料計量専門部会(燃料計量核データW.G.-久武)

49年度は主としてリクエストのスクリーニングを行いつつ、問題点の洗い出しを行い、3月までにスクリーニングを80%ほど終了、7月には完了の見込である。この間、NEANDC会合にその一部を報告し、またユーザーとのコンタクト、などを行った。これらは、理研への委託調査によって進めた。

Horenに対しデータファイルを提供してくれるよう求めたが、しばらく先にならうとの返事があった。(資料-6)

50年度計画については、スクリーニング作業が一段落してから検討の予定である。今年度は広島大か名古屋大へ委託をしたい。核構造データの検索システムの検討、崩壊熱グループとのコンタクトもとりたいと考えている。

(4) 燃料計量専門部会(崩壊熱W.G.中嶋)

35核種中最近のNDSIC報告のない核に対する文献調査を3月末に完了した。今年度はデータの無い核に対して計算を行なっていく予定である。現状のレビューをEACRPの会合に出したいと思っている。

これらの報告を通じてNon neutron Dataのファイル、検索システム

ムについて共通の課題として検討する必要があるとの意見が出された。

8. 51年度概算要求(五十嵐)

資料-12にもとづき現在所内要求中の51年度概算要求について説明があった。

9. 委員会の方針

(1) charged particle Reaction Data や Atomic and Molecular Data の扱いについて今後 Σ 委としてどうするかとの問題提起があり今後の検討課題とすることとし幹事会でその進め方を整理することとした。Charged particle については一度大沼氏グループに Σ 委員会に出してもらってはどうかなどの意見が出された。

(2) Shield 関係

宮坂委員より遮蔽関係に必要な核データにつき資料-7にもとづき説明があった。

(3) γ -ray production

高橋委員を中心に、何人かの人を選んで検討を依頼することとした。

(4) 検索システム

久武、中嶋、更田の3氏を中心にして検討することとした。

(5) 二年報

今年は原子力学会に委員会活動の2年報を報告する年にあたるので夏位までに作業の要がある。

核データ研で原案を作り、幹事会で決定して原稿を依頼する。

10. その他

(1) 資料-8につきコメントあれば核データ研へ連絡のこと。

(2) 研究会は予算がおとされたため、今年は開けないが来年ぜひ開きたい。

(3) Data Referral Centreについては、次回更田氏より報告がある
予定。

(4) CCDNのEvaluation News letterへの協力。

5月末に国内メ切を行うので、協力を願いたい。

(5) 国際会議の予定 資料-9

なお IAEA Transactiniumの会合に五十嵐氏が出席の予定。

11. 次回

8, 9月に開催の予定とする。